

東日本大震災・・・羽村市の防災対策は？

羽村市の担当者にききました 日本共産党羽村市議団と倉田まなぶさん

3月11日に発生した東日本大震災は、日本での観測史上最大の巨大地震とされ、地震と津波による被害は甚大なものとなっています。原発事故も依然、予断を許しません。日本共産党は、全てのみなさんと共同して被災地の救援・復興活動に全力をあげています。

羽村市においても、計画停電や、交通、物資、医療などさまざまな影響が出ています。

日本共産党羽村市議団と倉田まなぶさんは羽村市の防災対策について、羽村市の総務部長に話をうかがいました。

被災者の受け入れは

スポーツセンターで50人ほど受け入れる用意をしているが、いまのところ申し込みはない。福島県から10数世帯が羽村市に来ていることは把握しているが、それぞれ親戚、知人宅やアパートなど借りて暮らしているとのこと。市内不動産会社から、協力の申し入れがされているので、相談があれば会社のリストを渡す。

防災無線が聞きづらいが

今回の震災後、「聞きづらい」という苦情が非常に多くなっている。改めて調査し、聞きやすいようにしていかなければと考えている。東電からの計画停電予定やJR東日本からの運行計画の情報が遅かったので、東電とJRに迅速に情報提供するよう要請している。得られた情報はすぐに市民に知らせるようにしている。

市民への情報の提供は

広報はむら臨時号を3号まで発行した。各家庭に配布しているが、市ホームページからも見ることができる。メール配信サービス（電子メールを使って携帯電話やパソコンに災害情報・防犯情報などの緊急情報や、観光・文化情報な

どの地域情報、緊急かつ特別にお知らせしたい情報を伝える)も利用者がここで急増している。市ホームページを通してできるだけ早く情報を伝えるようにしている。



市役所で話をきく倉田まなぶさんと鈴木たくや市議

はむらの水の安全性は

羽村市では、独自に地下水を利用して供給している。3月23日の検査で、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも不検出で安全性は確認されている。今後も定期的に検査していく。

羽村市地域防災計画の見直しは

今回の震災で、市職員を招集する際の震度の設定や対応の役割分担など、問題点も明らかになったので、これらを教訓にし、見直しが必要と考えている。

全国から寄せられた救援募金 4県の市町に届けました

日本共産党

日本共産党は、全国で被災者救援募金に取り組んでいます。全国で寄せられた救援募金を被災地に届ける活動をはじめました。28日は、青森県八戸市、おいらせ町、階上町（はしかみちょう）福島県相馬市、新地町、岩手県盛岡市、宮城県仙台市に届けました。29日以降、沿岸部13市町に各500万円を贈ります。